

SSH米国海外研修① アメリカ到着！

この夏、2年生の理数科・普通科計31名はSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）米国海外研修に参加しました。生徒たちは7月18日から27日まで主にウィスコンシン州コンコルディア大学に滞在し、五大湖に関する講義や実習を通してミシガン湖の水環境を学んだり、手賀沼やミシガン湖に関するプレゼンテーションを行ったりしました。10日間にわたる研修の様子を全4回でお伝えします。

7月18日（1日目）：アメリカ到着

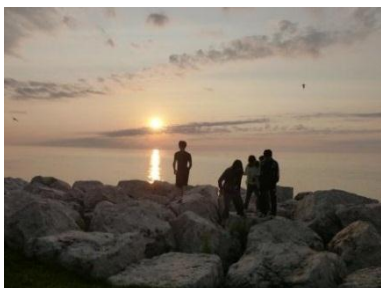
1学期の終業式を終えた7月18日、多くが初の海外という31名は真新しいパスポートとともに日本を飛び立ちました。成田空港を午後5時に出発し、11時間のフライトを経て同日午後3時、シカゴ国際空港に到着しました。出発より早い時間に到着するのは、時差の関係だと分かっているとは思えない感覚です。空港から更にバスで2時間のコンコルディア大学へ向かいましたが、長旅の疲れから皆、車窓の景色を楽しむ余裕もなくぐっすり眠っていました。

7月19日（2日目）：デニス・サリバン号乗船実習 / プレゼンテーション I

この日は19世紀の帆船を復元したデニス・サリバン号の乗船実習を行いました。実習ではまず全員で帆を上げましたが、帆の力だけで進む船なので運航中もエンジン音がなくとても静かです。船上ではミシガン湖の透明度測定、湖底の泥や水中の生物観察などを行いミシガン湖の水環境に関する理解を深めました。18歳以上で英語ができればボランティアスタッフになれるそうなので、大学生になったら夏休みをデニス・サリバン号で過してみるのはいかがでしょうか！？

夜は手賀沼の地史や水環境、日本のエネルギー問題に関するプレゼンテーションです。生徒たちは期末試験の準備で忙しい中、時間をやりくりしてプレゼンを作成しました。英語での発表練習も行いましたが、やはりアメリカ人の先生方を前にとっても緊張しました。本番では、事前研修で学んだWalk&Talk（歩きながら話すーゆっくりと話すようになる効果もあります）やGesture（身振り手振り）を心がけながら、質疑応答も含めて堂々と発表することができました。プレゼンが終わったのは夜9時半過ぎ外は真っ暗でしたが、大きな山を越えてホッとした様子でした。

次回は野外実習についてお伝えします。慣れない胴長を着ての野外実習で様々な生物を見つけました。どうぞお楽しみに！



ミシガン湖のサンライズ



全員で帆を上げる



手賀沼の成り立ちを英語で発表